

兵庫医科大学 研究実施のお知らせ

本学で実施しております以下の研究についてお知らせ致します。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究課題名	腹部鏡視下手術における術後皮下気腫に関する検討 [倫理審査受付番号：第 4262 号]
研究責任者氏名	下部消化管外科 講師 片岡幸三
研究機関長名	兵庫医科大学長 野口 光一
研究期間	2022 年 12 月 26 日 ~ 2024 年 12 月 31 日
研究の対象	以下に該当する患者さんを研究対象とします。 疾患名：腹部外科手術 / 診療科名等：下部消化管外科/手術センター 受診日：西暦 2019 年 4 月 1 日 ~ 2022 年 9 月 30 日
研究に用いる 試料・情報の種類	試料等 <input checked="" type="checkbox"/> カルテ情報 アンケート その他 () 取得の方法： <input checked="" type="checkbox"/> 診療の過程で取得 その他 ()
研究目的・意義	近年、外科手術において鏡視下手術（腹腔鏡下手術、ロボット支援下手術など）が急速に普及しています。鏡視下手術は手術創の縮小や、患者様への手術侵襲の低減、安定した手術操作など優れた点が多く普及につながっています。しかし、鏡視下手術のデメリットの一つとして、皮下気腫があげられます。鏡視下手術では体腔内を二酸化炭素ガスで膨らませ（気腹）手術を行います。それにより、皮膚の下に二酸化炭素ガスが貯留したり（皮下気腫）、血中二酸化炭素濃度が上昇してしまう（高二酸化炭素血症）方が存在します。皮下気腫、高二酸化炭素血症により手術後の抜管（人工呼吸器からの離脱）や頻脈、高血圧、不整脈等の発症が報告されています。2019 年 4 月 1 日から 2022 年 9 月 30 日までに当院腹部外科（肝・胆・膵外科、上部消化管外科、下部消化管外科、炎症性腸疾患外科、泌尿器科、産科婦人科、小児外科）で施行された腹部鏡視下手術（腹腔鏡下手術、ロボット支援下手術）における、患者さんの背景や手術因子と皮下気腫発生の関連について調査し、皮下気腫の発生率や、抜管ができなかった例の割合、皮下気腫発生の危険因子などを探索することにより、手術を受ける方の皮下気腫の早期発見、合併症予防につながると考えます。

<p>研究の方法</p>	<p>2019年4月1日から2022年9月30日までの間に当院腹部外科（肝・胆・膵外科、上部消化管外科、下部消化管外科、炎症性腸疾患外科、泌尿器科、産科婦人科、小児外科）で施行された鏡視下手術（腹腔鏡下手術、ロボット支援下手術）を対象に、患者さんの背景、手術因子、術後皮下気腫発生の有無を調査し検討します。皮下気腫の評価は、術後抜管前に手術室で撮影された胸腹部レントゲンを用いて判定します。</p>
<p>個人情報の取扱い</p>	<p>個人情報と診療情報に関する記録の一部は外部に漏れたり、本研究の解析以外の目的で使用されないよう厳重に管理されます。個人情報は個人が識別できないような形となっており、患者氏名やカルテ番号に代わる識別指標を作成したうえでその対応表を作成し、それらは施設で厳重に管理されます。</p>
<p>本研究に関する連絡先</p>	<p>診療科名等：下部消化管外科 担当者氏名：片岡幸三、伊藤一真 [電話]（平日9～17時）0798-45-6372 （上記時間以外）0798-45-6111</p>